

(様式第10)

愛 医 病 管 第 1 4 4 号
平 成 2 6 年 9 月 3 0 日

東海北陸厚生局長 殿

学校法人 愛知医科大学
理事長 三 宅 養 三 印

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1-1
氏 名	学校法人 愛知医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

愛知医科大学病院

3 所在の場所

〒 480 - 1195	電話 (0561)62-3311
愛知県長久手市岩作雁又1-1	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 腎臓内科 5 神経内科 6 血液内科 7 内分泌内科	
8 代謝内科 9 アレルギー科 10 リウマチ科 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無				
外科と組み合わせた診療科名等						
1 呼吸器外科	2 消化器外科	3 乳腺外科	4 心臓血管外科	5 内分泌外科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

1 精神科	2 小児科	3 整形外科	4 脳神経外科	5 皮膚科	6 泌尿器科	7 産婦人科
8 産科	9 婦人科	10 眼科	11 耳鼻咽喉科	12 放射線科	13 放射線診断科	
14 放射線治療科	15 麻酔科	16 救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無				
歯科と組み合わせた診療科名等						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47 床	床	床	床	853 床	900 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 8月 1日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	434 人	8.2	442.2 人	看護補助者	8 人	診療エック ス線技師	人
歯科医師	13 人	0.9 人	13.9 人	理学療法士	26 人	臨床検査技 師	70 人
薬 剤 師	59 人	2.7 人	61.7 人	作業療法士	7 人	臨床検査 衛生検査技 師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	5 人	そ の 他	人
助 産 師	21 人	人	21 人	義肢装具士	人	あん摩マッサー ジ指圧師	人
看 護 師	974 人	17.7 人	991.7 人	臨床工学技士	16 人	医療社会事 業従事者	12 人
准看護師	5 人	人	5 人	栄 養 士	1 人	その他の技術員	38 人
歯科衛生士	3 人	0.7 人	3.7 人	歯科技工士	2 人	事 務 職 員	80 人
管理栄養士	12 人	人	12 人	診療放射線技師	54 人	その他の職員	25 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 8月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	11 人	眼 科 専 門 医	13 人
外 科 専 門 医	29 人	耳鼻咽喉科専門医	12 人
精 神 科 専 門 医	10 人	放 射 線 科 専 門 医	10 人
小 児 科 専 門 医	18 人	脳神経外科専門医	10 人
皮 膚 科 専 門 医	10 人	整 形 外 科 専 門 医	18 人
泌 尿 器 科 専 門 医	8 人	麻 酔 科 専 門 医	15 人
産 婦 人 科 専 門 医	17 人	救 急 科 専 門 医	10 人
		合 計	191 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	698.7	11.9 人	710.6 人
1日当たり平均外来患者数	1,970.5 人	72.5	2,043 人
1日当たり平均調剤数			3,504 剤
必 要 医 師 数			185.9 人
必 要 歯 科 医 師 数			5.1 人
必 要 薬 剤 師 数			44 人
必 要 (准) 看 護 師 数			428 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	834.43 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	40床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	243.39 m ² 台	病床数	18床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	31 m ²			
化学検査室	596 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、検体検査自動化システム		
細菌検査室	146 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌検査装置、サーマルサイクラー、ふ卵器		
病理検査室	491 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ベンタベンチマークULTRA, LEICA ASP6025, OLYMPUS BX51		
病理解剖室	43 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パイプボード対策解剖台&切出し台, 赤マシ希釈装置, 臓器撮影装置(換気付)		
研究室	6,340 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	研究用機器		
講義室	3,363 m ²	鉄筋コンクリート	室数	20室	収容定員	2,082人
図書室	1,976 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵書数	13万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	66.4 %	逆紹介率	40.6 %
算 出 根 拠	A：紹介患者の数		19,226人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,829人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,779人
	D：初診の患者の数		31,597人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化リンパ球移入療法	16 人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	13 人
急性リンパ性白血症細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存疫変(MRD)量の測定	22 人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ボルテゾミブ静脈内投与, メルフェラン経口投与及びデキサメタゾン経口投与の併用療法	1 人
パクリタキセル腹腔内投与療法	9 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	93 人	・膿疱性乾癬	6 人
・多発性硬化症	124 人	・広範脊柱管狭窄症	3 人
・重症筋無力症	230 人	・原発性胆汁性肝硬変	2 人
・全身性エリテマトーデス	1,519 人	・重症急性膵炎	42 人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	67 人
・再生不良性貧血	49 人	・混合性結合組織病	77 人
・サルコイドーシス	752 人	・原発性免疫不全症候群	9 人
・筋萎縮性側索硬化症	32 人	・特発性間質性肺炎	71 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	486 人	・網膜色素変性症	69 人
・特発性血小板減少性紫斑病	264 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	40 人	・肺動脈性肺高血圧症	1 人
・潰瘍性大腸炎	312 人	・神経線維腫症	66 人
・大動脈炎症候群	38 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	48 人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	2 人
・天疱瘡	71 人	・慢性血栓性肺高血圧症	2 人
・脊髄小脳変性症	65 人	・ライソゾーム病	0 人
・クローン病	110 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	55 人
・悪性関節リウマチ	13 人	・脊髄性筋萎縮症	4 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	567 人	・球脊髄性筋萎縮症	6 人
・アミロイドーシス	76 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15 人
・後縦靭帯骨化症	242 人	・肥大型心筋症	119 人
・ハンチントン病	1 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	69 人	・ミトコンドリア病	10 人
・ウェゲナー肉芽腫症	945 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	24 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	6 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	5 人	・黄色靭帯骨化症	9 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	71 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・麻酔管理料(1)(2)
・糖尿病合併症管理料	・放射線治療専任加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・外来放射線治療加算
・がん患者指導管理料(1)	・高エネルギー放射線治療
・がん患者指導管理料(2)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・がん患者指導管理料(3)	・がん治療連携計画策定料
・地域連携診療計画管理料	・糖尿病透析予防指導管理料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外来放射線照射診療料
・薬剤管理指導料	・時間内歩行試験
・医療機器安全管理料(1)(2)(歯科)	・ヘッドアップティルト試験
・歯科治療総合医療管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・在宅患者歯科治療総合医療管理料	・大腸CT撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・腫瘍脊椎骨全摘術
・HPV核酸検出	・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・検体検査管理加算(4)	・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下膝体尾部腫瘍切除術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型心電図検査	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・皮下連続式グルコース測定	・院内トリアージ実施料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・内視鏡手術用支援機器加算
・神経学的検査	・広範囲顎骨支持型装置埋込手術
・補聴器適合検査	・生体腎移植術
・コンタクトレンズ検査料(1)	・総合評価加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・呼吸ケアチーム加算
・内服・点滴誘発試験	・心大血管疾患リハビリテーション料(1)
・センチネルリンパ節生検	・人工尿道括約筋植込・置換術
・CT撮影及びMRI撮影	・人工乳房及び組織拡張器(乳房用)使用
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・認知症専門診断管理料
・外来化学療法加算(1)	・臓器移植後患者指導管理料
・無菌製剤処理料	・自家培養軟骨使用
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	・植込型骨導補聴器移植術及び交換術
・運動器リハビリテーション料(1)	・心臓ペースメーカー指導管理料 植込型除細動器移行期加算
・呼吸器リハビリテーション料(1)	・持続血糖測定器加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)の初期加算	・胃瘻造設術
・運動器リハビリテーション料(1)の初期加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・呼吸器リハビリテーション料(1)の初期加算	・高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算
・医療保護入院等診療料	・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・一酸化窒素吸入療法	・歯科口腔リハビリテーション料(2)
・歯科技工加算	・緑内障手術(治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び交換術、脊髄刺激装置植込術及び交換術	・経皮的冠動脈形成術
・人工内耳植込術	・経皮的冠動脈ステント留置術
・乳がんセンチネルリンパ節加算(1)(2)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテクトミカテーテルによるものに限る)	・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
・経皮的中隔心筋焼灼術	・ポジトロン断層撮影
・ペースメーカー移植術及び交換術	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・輸血管管理料(1)・適正使用加算・貯血式自己輸血管管理料加算
・両心室ペースメーカー移植術及び交換術	・療養環境加算
・植込型除細動器移植術及び交換術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び交換術	・透析液水質確保加算(2)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・病理診断管理加算(1)
・経皮的冠動脈遮断術	・口腔病理診断管理加算(1)
・ダメージコントロール手術	・外来緩和ケア管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・
・生体部分肝移植術	・
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・
・医療点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・
・歯周組織再生誘導手術	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1か月に3回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 21 例 / 剖検率 3.6 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大腸癌における上皮細胞増殖因子関連新規分子標的遺伝子の機能解析	小笠原尚高	消化器内科	¥1,560,000	補 日本学術振興会
厚生労働省科学研究費「慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究」	米田 政志	消化器内科	¥1,500,000	補 厚生労働省
厚生労働省「B型肝炎ウイルスにおける糖鎖の機能解析と医用応用技術の実用化へ」	米田 政志	消化器内科	¥5,500,000	補 厚生労働省
文部科学省科学研究費「オリゴアレイCGH法によるNA SH発癌関連遺伝子の網羅的検索」	米田 政志	消化器内科	¥1,100,000	補 文部科学省
文部科学省科学研究費「2種類の次世代高速シーケンサーを用いたB型肝炎慢性化阻止法の開発」	伊藤 清顕	消化器内科	¥1,400,000	補 文部科学省
厚生労働省「B型肝炎ウイルスにおける糖鎖の機能解析と医用応用技術の実用化へ」	伊藤 清顕	消化器内科	¥7,110,000	補 厚生労働省
文部科学省科学研究費「肝癌における細胞周期チェックポイント制御機構の破綻機序の解明」	中尾 春壽	消化器内科	¥1,300,000	補 文部科学省
文部科学省科学研究費「非アルコール性脂肪性肝炎進展におけるストレスおよび交換神経系の関与」	中出 幸臣	消化器内科	¥950,000	補 文部科学省
中等度狭窄病変を有する慢性冠動脈疾患患者において機能的有意虚血に与える因子に関する検討	高島浩明	循環器内科	¥300,000	補 一般社団法人中京長寿医療研究推進財団
難治性稀少肺疾患（肺胞蛋白症、先天性間質性肺疾患、オスラー病）に関する調査研究班（H24-難治等（難治）一般-035）	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥1,300,000	補 厚労省
厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥250,000	補 厚労省
分子標的治療薬の新規薬力学評価法－非小細胞肺癌のがん性胸膜炎をモデルとして	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科	¥1,400,000	補 文科省
分化能と造腫瘍性から迫るヒトiPS細胞の品質決定機構の解析	岡田 洋平	神経内科	¥5,800,000	補 文部科学省

疾患特異的細胞iPS細胞を用いたニューロマスキュラーパソロジーの解析	岡田 洋平	神経内科	¥3,200,000	補	文部科学省
ノンコーディングRNAによるヒトES細胞の神経分化制御機構の解析	岡田 洋平	神経内科	¥1,200,000	補	日本学術振興会
神経分化に伴うゲノム不安定化を指標とした、ヒトiPS細胞の新しい品質評価法の開発	岡田 洋平	神経内科	¥1,000,000	補	日本損害保険協会
神経分化に伴うゲノム不安定化を指標としたヒトiPS細胞の新しい品質評価法の開発	岡田 洋平	神経内科	¥3,000,000	補	持田記念医学薬学振興財団
疾患特異的iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の病態解析と新規治療法の開発	岡田 洋平	神経内科	¥29,000,000	委	厚生労働省
孤発性ALS患者大規模前向きコホートの臨床バイオリソース・ゲノム遺伝子・不死化細胞を用いた病態解明、治療法開発研究	岡田 洋平	神経内科	¥2,000,000	委	厚生労働省
ヒトiPS細胞由来神経幹細胞のゲノム不安定化と造腫瘍性を規定する因子の検討	岡田 洋平	神経内科	¥1,000,000	補	日本損害保険協会
課題名なし(平成26年度 幹細胞実用化研究支援事業)	岡田 洋平	神経内科	¥1,000,000	補	リプロセル株式会社
神経分化に伴うゲノム不安定化を指標としたヒトiPS細胞の新しい品質評価法の開発	岡田 洋平	神経内科	¥2,000,000	補	武田科学振興財団
アミロイドーシスに関する調査研究班	今井裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	¥1,500,000	補	厚労省
アミロイドーシスの成因解明と治療法開発	今井裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	¥400,000	委	愛知県特定疾患助成
人工多能性幹細胞由来神経堤細胞による糖尿病性多発神経障害の細胞移植療法を検討	中村二郎	糖尿病内科	¥500,000	委	独立行政法人日本学術振興会
文部科学省委託事業「がん薬物療法の個別適正化プログラム」「遺伝子型に基づくカルバマゼピンのオーダーメイド投薬の検証に関する前向き臨床研究」	兼本浩祐	精神神経科	¥1,500,000	補	独立行政法人理化学研究所
重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究	奥村彰久	小児科	¥1,500,000	補	厚生労働省
日本人におけるPRRT2変異によるてんかんの包括的研究	奥村彰久	小児科	¥1,600,000	補	てんかん治療研究振興財団

モノクロナール抗体をもちいたアスパラギナーゼ感受性腫瘍の検索	鬼頭敏幸	小児科	¥1,710,000	補	文部科学省
LCHにおける免疫染色によるAsparagine synthetase発現の検討	鬼頭敏幸	小児科	¥200,000	補	NPO法人LCH研究会
川崎病の冠動脈病変の発症・悪化を予測する新規マーカー分子測定系の確立に関する研究	鬼頭敏幸	小児科	¥1,000,000	補	東海産業技術振興財団
川崎病における血中PTX3複合体の同定	鬼頭敏幸	小児科	¥1,300,000	補	独立行政法人科学技術振興機構
フォン・ヒッペルリンドウ病の病態調査と診断治療確立の研究	鬼頭敏幸	小児科	¥0	補	厚生労働省
小児造血管腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究	堀 壽成	小児科	¥300,000	補	厚生労働省
難治性小児がんに対する組織的・包括的取り組みに基づく臨床的特性に関する分子情報の体系的解析と、その知見を活用した診断・治療法の開発	堀 壽成	小児科	¥1,200,000	補	厚生労働省
磁気ナビゲーションシステムによる画像融合技術を用いた乳腺超音波装置の開発	吉田美和	乳腺・内分泌外科	¥780,000	補	日本学術振興会
乳癌組織におけるSHAP-HA複合体による酸化ストレス防御機構の解明	藤井公人	乳腺・内分泌外科	¥2,340,000	補	日本学術振興会
磁気ナビゲーションシステムを用いた診断支援型乳腺超音波イメージングシステムの開発	中野正吾	乳腺・内分泌外科	¥4,160,000	補	日本学術振興会
甲状腺癌における細胞外マトリックス成分の発現動態を介した癌転移浸潤機構の解明	高阪絢子	乳腺・内分泌外科	¥2,470,000	補	日本学術振興会
磁気ナビゲーションシステムを用いた分子イメージングシステム標的病変検出支援型超音波診断装置の開発	安藤孝人	乳腺・内分泌外科	¥4,160,000	補	日本学術振興会
細胞外マトリックス成分の生合成からみた乳癌・甲状腺癌転移浸潤機構の解明	手塚理恵	乳腺・内分泌外科	¥2,470,000	補	日本学術振興会
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究（分担）	高安正和	脳神経外科	¥250,000	補	厚生労働省研究費 補助金（こころの健康科学研究事業） 代表嘉山孝正
胸腰椎固定患者に対する術中バンコマイシン創部塗布とアンピシリン創部塗布と重症術後創部感染予防の比較検討	竹内幹伸	脳神経外科	¥1,000,000	補	平成25年度財団法人愛恵会教育研究奨励金

妊娠高血圧症候群における酸化ストレスと胎児発育障害との関連性の検討	若槻明彦	産科婦人科	¥1,900,000	補	公益財団法人日母会
頭頸部癌におけるシスプラチン感受性規定因子の解明ー網羅的タンパク解析法を用いて	小川 徹也	耳鼻咽喉科	¥1,430,000	補	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）
都市内の災害時の流動に関する総合的研究 - 効率性と頑健性を備えた都市実現に向けて -	藤原祥裕	麻酔科	¥380,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
長期記憶形成におけるアストロサイト代謝の役割と麻酔薬作用の分子科学的機序の解明	木下浩之	麻酔科	¥460,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
敗血症病態による頻脈性不整脈におけるmicro-RNAの影響についての研究	畠山登	麻酔科	¥1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
救急医療体制の推進に関する研究	野口 宏	救命救急科	¥120,000	補	厚生労働省
救急救命士の処置範囲に係る研究	中川 隆	救命救急科	¥0	補	厚生労働省
南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究	中川 隆	救命救急科	¥0	補	厚生労働省
幹細胞のオートファジーを応用した効果的組織再生に向けたロジスティクス	山田陽一	歯科口腔外科	¥1,430,000	補	厚生労働科学研究費補助金各研究事業
骨再生医療実現化に向けた肝細胞を応用した治療法開発	山田陽一	歯科口腔外科	¥700,000	補	日東学術振興財団
癌抗原ペプチドを用いた癌特異的リンパ球の選択的増殖法に関する検討	永井麻矢子	歯科口腔外科	¥360,000	補	大幸財団
ヘモビジュランス（血液安全監視）体制のあり方に関する研究	加藤栄史	輸血部	¥300,000	補	科学研究費助成事業
モノクローナル抗体をもちいたアスパラギナーゼ感受性腫瘍の検索	加藤栄史	輸血部	¥100,000	補	科学研究費助成事業
血液悪性腫瘍幹細胞ニッチを破壊させるFGF2の創薬を目標とした最小活性部位同定	中山享之	輸血部	¥1,300,000	補	科学研究費助成事業
悪性リンパ腫細胞を保持するniche（ニッチ）は、どのように形成されるか	中山享之	輸血部	¥500,000	補	日本白血病研究基金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kasugai K	消化器内科 (消化管部門)	Shape from Endoscope Image based on Photometric and Geometric Constraints	Procedia Computer Science, Elsevier, Vol.22, pp.1285-1293, 2013.
2	Kasugai K	消化器内科 (消化管部門)	Automatic Polyp Detection in Endoscope Images Using a Hessian Filter	Proc. of IAPR Machine Vision Applications (MVA 2013), Health and Life, 3-1, pp.21-24, 2013.
3	Kasugai K	消化器内科 (消化管部門)	Automatic Polyp Detection Using DSC Edge Detector and HOG Features	ICPRAM 2014 (International Conference on Pattern Recognition Applications and Methods), #24, pp.495-501, 2014.
4	Kondo Y	消化器内科 (消化管部門)	Edema of the interarytenoid mucosa seen on endoscopy is related to endoscopic-positive esophagitis (EE) and is an independent predictor of EE.	Dig Endosc.
5	Sasaki M	消化器内科 (消化管部門)	Transglucosidase improves the gut microbiota profile of type 2 diabetes mellitus patients: a randomized double-blind, placebo-controlled study	BMC Gastroenterol
6	Ozeki T	消化器内科 (消化管部門)	Protein-losing Enteropathy Associated with Collagenous Colitis Cured by Withdrawal of a Proton Pump Inhibitor.	Intern Med
7	Yoshitsugi Ito	消化器内科 (消化管部門)	Nonsteroidal anti-inflammatory drug-induced visible and invisible small intestinal injury.	J. Clin. Biochem. Nutr.
8	Naotaka Ogasawara	消化器内科 (消化管部門)	Gastric calcifying fibrous tumor removed by endoscopic submucosal dissection	World J Gastrointest Endosc
9	Yoshitsugu Ito	消化器内科 (消化管部門)	Effect of aspirin cessation before endoscopy in Japanese patients with low-dose-aspirin-associated gastroduodenal mucosal injury	United European Gastroenterology Journal
10	Masui R	消化器内科 (消化管部門)	G Protein-Coupled Receptor 43 Moderates Gut Inflammation Through Cytokine Regulation from Mononuclear Cells	Inflamm Bowel Dis
11	Kawamura N	消化器内科 (消化管部門)	Low-dose aspirin-associated upper gastric and duodenal ulcers in Japanese patients with no previous history of peptic ulcers.	BMC Res Notes
12	Ogasawara N	消化器内科 (消化管部門)	Solitary amyloidosis of the sigmoid colon featuring submucosal tumor caused hematochezia.	Intern Med.

13	Izawa S	消化器内科 (消化管部門)	The role of gastroesophageal reflux in relation to symptom onset in patients with proton pump inhibitor-refractory nonerosive reflux disease accompanied by an underlying esophageal motor disorder.	Digestion. 2014;89(1):61-7.
14	Ogasawara N	消化器内科 (消化管部門)	Predictive factors for intractability to endoscopic hemostasis in the treatment of bleeding gastroduodenal peptic ulcers in Japanese patients.	Clin Endosc. 2014 Mar;47(2):162-73.
15	Yoneda M	消化器内科	Risk factors for long-term persistence of serum hepatitis B surface antigen following acute hepatitis B virus infection in Japanese adults.	Hepatology
16	Yoneda M	消化器内科	Is the measurement of serum cytokeratin-18 useful for diagnosis or screening nonalcoholic steatohepatitis?	Hepatol Res
17	Yoneda M	消化器内科	Prognostic factors for Regression from impaired glucose tolerance to Normal Glucose Regulation in Japanese patients with nonalcoholic fatty liver disease.	Intern Med
18	櫻井慎一郎	循環器内科	Multiple recanalized images of thrombotic occlusion 19 years after percutaneous coronary intervention insights from optical coherence tomography and intravascular ultrasound.	Int J Cardiol. 2014 Mar.
19	熊谷宗一郎	循環器内科	Prognostic impact of lipid contents on the target lesion in patients with drug eluting stent implantation	Heart Vessels 2013
20	安藤博彦	循環器内科	Differences in tissue characterization of restenotic neointima between sirolimus-eluting stent and bare-metal stent:integrated backscatter intravascular ultrasound analysis for in-stent restenosis.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2013 14(10)996-1001
21	Tanaka H	呼吸器・アレルギー内科	A case of disseminated nontuberculous mycobacteriosis and cerebellar toxoplasmosis with autoantibody to interferon- γ .	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis
22	Asai N	呼吸器・アレルギー内科	Is emphysema a risk factor for pneumothorax in CT-guided lung biopsy?	Springerplus.
23	Asai N	呼吸器・アレルギー内科	Successful crizotinib re-challenge after crizotinib-induced interstitial lung disease in patients with advanced non-small cell lung cancer.	Clin Lung Cancer
24	Asai N	呼吸器・アレルギー内科	Relapsed small cell lung cancer: treatment options and latest developments.	Therapeutic Advances in Medical Oncology
25	岡田洋平	神経内科	Involvement of ER Stress in Dysmyelination of Pelizaeus-Merzbacher Disease with PLP1 Missense Mutations Shown by iPSC-Derived Oligodendrocytes	Stem Cell Report 2(5) 648-661 2014
26	Yoshino M, et al	腎臓・リウマチ膠原病内科	Clinicopathological Analysis of Glomerulopathy with Fibronectin Deposits (GFND): A Case of Sporadic, Elderly-Onset GFND with Codeposition of IgA, C1q, and Fibrinogen	Intern Med 52: 1715-1720, 2013
27	Nobata H, et al	腎臓・リウマチ膠原病内科	Hypocalcemia immediately after renal transplantation	Clinical Transplant 27: E644-648, 2013

28	Maeda K, et al	腎臓・リウマチ膠原病内科	Glomerular tip adhesions predict the progression of IgA nephropathy.	BMC Nephrol 14 272 2013
29	Nishimura N, et al	腎臓・リウマチ膠原病内科	Fat embolism syndrome: an autopsy-proven case involving a patient on dialysis and systemic scleroderma.	Clin Med Insights Case Rep. 20 7-12 2014
30	Kawai H, et al	腎臓・リウマチ膠原病内科	Retrospective analysis of factors predicting end-stage renal failure or death in patients with microscopic polyangiitis with mainly renal involvement	Clin Exp Nephrol Online first
31	Suzuki K, et al	腎臓・リウマチ膠原病内科	Estimated glomerular filtration rate and daily amount of urinary protein predict the clinical remission rate of tonsillectomy plus steroid pulse therapy for IgA nephropathy	Clin Exp Nephrol Online first
32	後藤峰明	血液内科	Adaptation of leukemia cells to hypoxic condition through switching the energy metabolism or avoiding the oxidative stress	BMC Cancer 2014 14; 76
33	恒川敬和	血液内科	Growth of xenotransplanted leukemia cells is influenced by diet nutrients and is attenuated with 2-deoxyglucose.	Leuk Res. 2013 Sep;37(9):1132-6.
34	高橋美裕希	血液内科	Arsenic trioxide prevents nitric oxide production in lipopolysaccharide -stimulated RAW 264.7 by inhibiting a TRIF-dependent pathway.	Cancer science. 2013 Feb;104(2):165- 70.
35	三輪啓志	血液内科	Leukemia cells demonstrate a different metabolic perturbation provoked by 2-deoxyglucose.	Oncol Rep. 2013 May;29(5):2053-7.
36	Jiro Nakamura	糖尿病内科	The alpha-glucosidase inhibitor miglitol affects bile acid metabolism and ameliorates obesity and insulin resistance in diabetic mice.	<i>Metab Clin Exp</i> 62: 734-742, 2013
37	Jiro Nakamura	糖尿病内科	Transplantation of neural crest like cells derived from induced pluripotent stem cells improves diabetic polyneuropathy in mice.	Cell Transplant 22: 1762-83, 2013
38	Jiro Nakamura	糖尿病内科	Mesenchymal stem cell-like cells derived from mouse induced pluripotent stem cells ameliorate diabetic polyneuropathy in mice.	Biomed Res Int 2013, Article ID 259187, 12pages, 2013
39	Jiro Nakamura	糖尿病内科	The role of S100B in the interaction between adipocytes and macrophages.	Obesity (Silver Spring) 22(2): 371-9, 2014
40	Jiro Nakamura	糖尿病内科	Sensory and motor physiological functions are impaired in gastric inhibitory polypeptide receptor-deficient mice.	J Diabetes Investig 5(1): 31-7, 2014
41	Ito G	精神神経科	A case of topical opioid-induced delirium mistaken as behavioural and psychological symptoms of dementia in demented state.	Psychogeriatrics 2013;13:118-23
42	Kanemoto K	精神神経科	Basic treatment principles for psychotic disorders in patients with epilepsy.	Epilepsia. 2013;54 Suppl 1:19-33

43	Orimoto Y	血管外科	The prognosis of patients on hemodialysis with foot lesions	Journal of Vascular Surgery, 58, 1291-1299, 2013
44	Hida N	血管外科	Current status of patients with Buerger disease in Japan	Annals of Vascular Diseases, 6, 617-623, 2013
45	鈴木和義	消化器外科	Multicenter phase II study of modified FOLFOX6 as neoadjuvant chemotherapy for patients with unresectable liver-only metastases from colorectal cancer in Japan: ROOF study.	Int J Clin Oncol.
46	Mendjargal A	消化器外科	Pifithrin- α , a pharmacological inhibitor of p53, downregulates lipopolysaccharide-induced nitric oxide production via impairment of the MyD88-independent pathway.	Int Immunopharmacol.
47	安田顕	消化器外科	Necrosis of Large Hepatocellular Carcinoma Induced by Preoperative Portal Vein Embolization: A Case Report	Dig Dis Sci
48	中野正吾	乳腺・内分泌外科	Reproducible surveillance breast ultrasound using an image fusion technique in a short-interval follow-up for BI-RADS 3 lesions: a pilot study.	Ultrasound in Medicine Biology. 2014; 40 (6) : 1049-57
49	今井常夫	乳腺・内分泌外科	High penetrance of pheochromocytoma in multiple endocrine neoplasia 2 caused by germ line RET codon 634 mutation in Japanese patients.	Eur J Endocrinol 2013 ; 168 : 683-7
50	大須賀浩二	脳神経外科	Phosphorylation of neuronal nitric oxide synthase at Ser1412 in the dentate gyrus of rat brain after transient forebrain ischemia.	Neurochem Int. 2013 Oct;63(4):269-74
51	大須賀浩二	脳神経外科	Activation of JAK-STAT3 signaling pathway in chronic subdural hematoma outer membranes.	Neurosci Lett. 2013 Feb 8;534:166-70.
52	上甲眞宏	脳神経外科	Different modifications of phosphorylated Smad3C and Smad3L through TGF- β after spinal cord injury in mice.	Neuroscience letter 549:168-172, 2013
53	竹内幹伸	脳神経外科	Plasmapore-Coated Titanium Cervical Cages Induce More Rapid and Complete Bone Fusion After Anterior Cervical Discectomy and Fusion as Compared to Noncoated Titanium Cages.	World Neurosurg. 2013 Apr;25(13):629-633
54	竹内幹伸	脳神経外科	Upper cervical cord compression due to a C-1 posterior arch in a patient with ossification of the posterior longitudinal ligament and a kyphotic cervical spine in the protruded-head position: case report.	J Neurosurg Spine. 2013 Oct;19(4):431-5.
55	Kajita Y	整形外科	Behavioral and neuropathological changes in animal models of chronic painful scar.	J Orthop Sci. 2013. 11;18(6):1005-11
56	Wakao N	脊椎脊髓センター(整形外科)	Variance of cervical vertebral artery measured by CT angiography and its influence on C7 pedicle anatomy.	Spine. 2014. 2;39(3):228-32.
57	Wakao N	脊椎脊髓センター(整形外科)	Plasmapore-Coated Titanium Cervical Cages Induce More Rapid and complete Bone Fusion After Anterior Cervical Discectomy and Fusion as Compared to Non-Coated Titanium Cages.	World Neurosurg. 2013 Apr 25. Ahead of print

58	Wakao N	脊椎脊髄センター(整形外科)	Upper cervical cord compression due to a C-1 posterior arch in a patient with ossification of the posterior longitudinal ligament and a kyphotic cervical spine in the protruded-head position.	J Neurosurg Spine. 2013 Oct;19(4):431-5
59	Wakao N	脊椎脊髄センター(整形外科)	Variance of Cervical Vertebral Artery Measured by CT Angiography and Its Influence on C7 Pedicle Anatomy	Spine (Phila Pa 1976). 2014 Feb 1;39(3):228-32
60	Wakao N	脊椎脊髄センター(整形外科)	A case of mediastinal embryonal carcinoma successfully treated by integrative therapy.	Nagoya J Med Sci. 2014 Feb 76(2):225-33
61	Wakao N	脊椎脊髄センター(整形外科)	A simple, 10-minute procedure for transforaminal injection under ultrasonic guidance to effect cervical selective nerve root block	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014 Mar 7 (ahead of print)
62	Ohshima Y	皮膚科	Psoriatic arthritis that responded dramatically when infliximab was switched to adalimumab.	Ann Dermatol. 2013 Nov;25(4):496-7
63	Takeo T	皮膚科	Evaluation of the antihistamine effects of olopatadine and levocetirizine during a 24-h period: a double-blind, randomized, cross-over, placebo-controlled comparison in skin responses induced by histamine iontophoresis.	J Dermatol. 2013 Dec;40(12):987-92
64	Ito K	皮膚科	Painless thyroiditis in drug-induced hypersensitivity syndrome with prolonged reactivation of herpesviruses.	Int J Dermatol. 2013 Apr;52(4):475-7.
65	Kuhara T	皮膚科	Quantitative analysis of shedding of Epstein-Barr virus in saliva from patients with connective tissue diseases: a pilot study	Int J Dermatol. 2013 Jul;52(7):887-90.
66	Ohshima Y	皮膚科	Treatment of patients with acquired idiopathic generalized anhidrosis.	Br J Dermatol. 2013 Feb;168(2):430-2
67	Arakawa-Todo M	薬剤部 (泌尿器科)	Management of Adverse Event in Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma Treated with Sunitinib and Clinical Outcomes	Anticancer Research 33(11):5043-50 2013 Nov.
68	Kimura C	産科・婦人科	The severity of hypoxic changes and oxidative DNA damage in the placenta of early-onset preeclamptic women and fetal growth restriction.	J Matern Fetal Neonatal Med 26(5):491-6, 2013
69	Matsushita H	産科・婦人科	Fetal intracranial injuries following motor vehicle accidents with airbag deployment	J Obstet Gynaecol Res 40(2):599-602, 2014
70	Matsushita H	産科・婦人科	Maternal and perinatal outcome in pregnancies complicated by uterine cervical prolapse.	J Obstet Gynaecol Res 33(6):569-71, 2013
71	Matsushita H	産科・婦人科	Ovarian cancer presenting as a metastasis to a trocar tract used for gasless lift-laparoscopy to resect a benign ovarian cyst: an unusual case report	Eur J Gynaecol Oncol 34(5):480-3, 2013
72	Matsushita H	産科・婦人科	Management of a second trimester miscarriage in a woman with incarcerated retroverted uterus	J Obstet Gynaecol 34(3):272-3, 2014

73	Wakatsuki A	産科・婦人科	Familial Hypercholesterolemia	J Atheroscler Thromb 21(1): 6-10, 2014
74	Matsushita H	産科・婦人科	Improvement of depression-like behavior and memory impairment with the ethanol extract of <i>Pleurotus eryngii</i> in ovariectomized rats	Biol Pharm Bull 36(12):1990-5, 2013
75	Wakatsuki A	産科・婦人科	Annual report on women's health care committee of Japan Society of Obstetrics and Gynecology	J Obstet Gynecol Res 40(2):353-9, 2014
76	Mori T	産科・婦人科	Differences in vascular reactivity between pregnant women with chronic hypertension and preeclampsia	Hypertens Res 37:145-50, 2014
77	Ohyama Y	産科・婦人科	Effect of the ethanol extract of <i>pleurotus eryngii</i> on bone metabolism in ovariectomized rats	Climacteric 17(4):492-9, 2014
78	Harada R	産科・婦人科	Effects of gonadotropin-releasing hormone agonist on vascular reactivity, oxidative stress, and plasma levels of asymmetric dimethylarginine, inflammatory markers, glucose, and lipids in women with endometriosis.	J. Aichi Med. Univ. Assoc. 42: in press
79	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	Amniotic pocket changes following Wu-Ling-San treatment for gestational edema	Am J Chin Med 41(2):293-9, 2013
80	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	Increased oxygen free radical production during pregnancy may impair vascular reactivity in preeclamptic women.	Hypertens Res 36(4):356-60, 2013
81	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	Outline of Definition and Classification of "Pregnancy induced Hypertension (PIH)"	Hypertens Res Pregnancy 1(1):3-4, 2013
82	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	A Brief Review of the 2009 JSSHP Guidelines for the care and treatment of Pregnancy induced Hypertension	Hypertens Res Pregnancy 1(1):5-7, 2013
83	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	Committee report on cerebrovascular disorders, including eclampsia and emergency medical services, of the Japan Society for the Study of Hypertension in Pregnancy	Hypertens Res Pregnancy 1(1):8-12, 2013
84	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	Incidence of eclampsia in Japanese women	Hypertens Res Pregnancy 1(1):31-4, 2013
85	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	Characteristic changes in systemic blood pressure just before the onset of eclampsia	Hypertens Res Pregnancy 1(1):35-9, 2013
86	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	Oxidative stress in the fetus of preeclamptic women with fetal growth restriction	Hypertens Res Pregnancy 1(2):98-102, 2013
87	Watanabe K	生殖・周産期母子医療センター	Differences in levels of oxidative stress in mothers and neonate: the impact of mode of delivery	J Matern Fetal Neonatal Med 26(16):1649-52, 2013

88	Mizumoto K	眼科	Correlation between optic nerve head structural parameters and glaucomatous visual field indices.	Clin Ophthalmol.
89	Takeyama M	眼科	Recurrent vitreous hemorrhage associated with regressed retinopathy of prematurity in a 47-year-old patient: a case report.	J Med Case Rep.
90	Takeyama M	眼科	Macroaneurysm on the optic disc in a patient with aortic dissection.	Case Rep Ophthalmol.
91	Kawamura M	眼科	Long-term stability of uveitis with faint anterior chamber flare treated with once-daily topical ophthalmic betamethasone.	Inflammation.
92	Yamada H	眼科	Infliximab counteracts tumor necrosis factor- α -enhanced induction of matrix metalloproteinases that degrade claudin and occludin in non-pigmented ciliary epithelium.	Biochem Pharmacol.
93	Kawamura M	眼科	Successful trabeculotomy in a patient with corticosteroid-induced glaucoma with anti-aquaporin 4 antibody-positive neuromyelitis optica: a case report.	J Med Case Rep.
94	Matsuda H	眼科	Combination of nasolabial v-y advancement flap and glabellar subcutaneous pedicled flap for reconstruction of medial canthal defect.	Case Rep Ophthalmol.
95	Takahashi Y	眼科	Bilateral optic nerve involvement in immunoglobulin G4-related ophthalmic disease.	J Neuroophthalmol.
96	Takahashi Y	眼科	Topical rebamipide treatment for superior limbic keratoconjunctivitis in patients with thyroid eye disease.	Am J Ophthalmol.
97	Takahashi Y	眼科	Intraocular pressure change with eye positions before and after orbital decompression for thyroid eye disease.	Ophthalm Plast Reconstr Surg.
98	Matsuda H	眼科	A Freely Movable Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma in the Preaponeurotic Space.	Ophthalm Plast Reconstr Surg.
99	Takahashi Y	眼科	Anatomy of deep lateral and medial orbital walls: implications in orbital decompression surgery.	Orbit
100	Takahashi Y	眼科	Dacryoendoscopic findings of lacrimal passage with congenital punctal atresia.	Orbit
101	Kakizaki H	眼科	Intra-sac portion of the lacrimal canaliculus.	Orbit
102	Kakizaki H	眼科	Movement of internal canicular orifice in association with blinking: direct observation after dacryocystorhinostomy.	Am J Ophthalmol.

103	Takahashi Y	眼科	Dacryoendoscopic findings in the lacrimal passage in failed dacryocystorhinostomy.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
104	Takahashi Y	眼科	A technique for hemostasis from the cortical bone using an ultrasonic bone aspirator.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
105	Takahashi Y	眼科	A technique for visualizing tear meniscus in patients with lower eyelid sagging or retraction.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
106	Takahashi Y	眼科	The narrowest part of the bony nasolacrimal canal: an anatomical study.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
107	Takahashi Y	眼科	Adenoma of the nonpigmented ciliary epithelium in the phthisic eye.	Orbit.
108	Takahashi Y	眼科	Anatomy of secretory glands in the eyelid and conjunctiva: a photographic review.	Orbit.
109	Takahashi Y	眼科	Horizontal orientation of the bony lacrimal passage: an anatomical study.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
110	Takahashi Y	眼科	Dacryoendoscopic findings of intracanalicular punctal plug migration with or without canaliculitis.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
111	Uchida Y	耳鼻咽喉科	Endothelin-1 gene polymorphism in sudden sensorineural hearing loss.	Laryngoscope. 123:11:E59-65 2013
112	Ueda H	耳鼻咽喉科	Factors affecting fenestration of the footplate in stapes surgery:Effectiveness of fisch' s reversal steps stapedotomy.	Otol Neurotol. 34:9:1576-80 2013
113	Ogawa T	耳鼻咽喉科	Case of malignant transformation of vagus nerve schwannoma to angiosarcoma.	Head Neck 36(2):E17-20 2014
114	Ikeda A	耳鼻咽喉科	Case of partial vertical laryngectomy with vocal cord reconstruction using a thyroid gland flap.	Head Neck 36(8):E73-7 2014
115	Tanigawa T	耳鼻咽喉科	Auditory cells produce nitric oxide in response to bacterial lipopolysaccharide.	Innate Immun 2013;19:115-20
116	Katahira N	耳鼻咽喉科	Diluted gadoteridol (ProHance®) causes mild ototoxicity in cochlear outer hair cells.	Acta Otolaryngol 2013;133:788-95
117	Tanigawa T	耳鼻咽喉科	A tonsillolith: possible cause of halitosis.	Am J Med Sci 2013;346:64

118	Akira Kitagawa	放射線科	Ethanolamine Oleate Sclerotherapy Combined with Transarterial Embolization Using n-Butyl Cyanoacrylate for Extra-cranial Arteriovenous Malformations.	CardioVascular and Interventional Radiology June 2013
119	Kenya Iwakura	救命救急科	Simultaneous and sensitive analysis of fourth-generation antidepressants in human plasma by ultra-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry	Forensic Toxicol
120	山田陽一	歯科口腔外科	Minimally Invasive Approach with Tissue Engineering for Severe Alveolar Bone Atrophy Case.	Int J Oral Max Surg, 42(2), 260-263, 2013.
121	山田陽一	歯科口腔外科	Injectable Bone Tissue Engineering Using Expanded Mesenchymal Stem Cells.	Stem Cells, 31(3), 572-580, 2013.
122	山田陽一	歯科口腔外科	Osteotome technique with injectable tissue-engineered bone and simultaneous implant placement by cell therapy.	Clin Oral Implants Res, Apr; 24(4), 468-74, 2013.
123	古橋明文	歯科口腔外科	Effective three-dimensional evaluation analysis of upper airway form during oral appliance therapy in patients with obstructive sleep apnoea.	J Oral Rehabil, 40(8), 582-89, 2013.
124	高橋恵美子	病院病理部	Histiocytic sarcoma : an updated literature review based on the 2008 WHO classification.	J Clin Exp Hematop. 2013;53(1):1-8. Review.
125	Hidefumi Kato	輸血部	Incidence of transfusion-related adverse reactions per patient reflects the potential risk of transfusion therapy in Japan.	Am J Clin Pathol, 140: 219-224, 2013
126	中山享之	輸血部	Dexamethasone Palmitate Ameliorates Macrophages-Rich Graft-versus-Host Disease by Inhibiting Macrophage Functions	PLoS One. 2014 ;9(5):e96252.

計 126

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- (注) 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	春日井邦夫	消化器内科 (消化管部門)	逆流性食道炎初期治療に対するエソメプラゾールの有効性の検討 —オメプラゾールを対照とした無作為化二重盲検比較試験—	日消誌 110(2):32-40, 2013
2	春日井邦夫	消化器内科 (消化管部門)	胃食道逆流症 (GERD) 機能性ディスぺプシアとGERDの症状の特徴・重複	medicina 50(5):851-854, 2013
3	春日井邦夫	消化器内科 (消化管部門)	逆流性食道炎治療患者を対象としたエソメプラゾールの寛解維持効果と安全性の検討 オメプラゾールを対照とした無作為化二重盲検第III相比較試験	日消誌 110(8):1428-3, 2013
4	道勇 学	神経内科	複視/眼球運動障害 物が二重に見える	日本医師会雑誌 142特別号(2), 2013
5	岡田洋平	神経内科	神経幹細胞への分化誘導	実験医学別冊 「ES・iPS細胞実験スタンダード」, 2014
6	Imai H	腎臓・リウマチ膠原病内科	Circulating Antipodocyte Antibodies in Membranous Nephropathy: Pathophysiologic and Clinical Relevance	Am J Kidney Dis 62 16-19 2013
7	深津孝英	精神神経科	Aripiprazole内用液が効果的であった摂食障害の2例.	臨床精神薬理 16 :729-733, 2013
8	加藤悦史	精神神経科	Levetiracetamのてんかんに対する有用性 自験119例からの検討.	てんかん研究 30 :487-495, 2013
9	加藤悦史	精神神経科	パニック障害とてんかん性不安発作"ictal fear"の臨床的相違.	精神医学 55 :121-127, 2013
10	加藤悦史	精神神経科	抗うつ薬による薬剤性盗汗に対して防己黄耆湯が奏効した1例.	精神医学 54 :1159-1161, 2013
11	加藤悦史	精神神経科	ヘロイン中毒との鑑別を要した甲状腺クリーゼの1例.	精神科治療学 28 :815-818, 2013
12	兼本浩祐	精神神経科	てんかんにおける抑うつ状態に抗うつ剤は有効か—一つの小さなclinical question からEBMについて考える—.	精神科治療学 28:67-72, 2013
13	兼本浩祐	精神神経科	非定型精神病の疫学—周期性精神病を中心に—.	最新精神医学 18 :325-328, 2013
14	兼本浩祐	精神神経科	発作頻度がごく少ないか、社会的影響の小さなてんかん発作.	精神科治療学 28 :909-914, 2013

15	兼本浩祐	精神神経科	妊娠と出産を巡る精神科臨床-何を理解し、どう関わるか?-1】精神科ユーザーの妊娠出産 てんかん.	精神科治療学 28 :585-590, 2013
16	兼本浩祐	精神神経科	[精神科医のためのてんかん入門連続講義] 脳波が読めない時どうするか・脳波を最低限どこまで読むか.	精神科治療学 28 :532-535, 2013
17	兼本浩祐	精神神経科	長期的視野”を重視した小児てんかん治療 小児患者と家族のQOLを考える.	Pharma Medica 31 :191-196, 2013
18	兼本浩祐	精神神経科	てんかんの早期診断・早期治療の課題	精神科治療学 28 :1485-1489, 2013
19	兼本浩祐	精神神経科	精神病理と脳 心因・内因・外因 Schneiderの太線を我々はかくもナイーブに飛び越えて良いのか.	臨床精神病理 34:207-214, 2013
20	兼本浩祐	精神神経科	道具の強制使用・他人の手徴候.	Clinical Neuroscience 32 :90-92, 2014
21	兼本浩祐	精神神経科	てんかんに併存する精神病—本邦における歴史と新たな展望— .	精神医学 56 :255-257, 2014
22	兼本浩祐	精神神経科	てんかんに併存した抑うつ状態	精神科治療学 29 :331-336, 2014
23	鬼頭敏幸	小児科	小児マクロファージ活性化症候群の病態と治療	炎症と免疫 22巻2号 110-114 2014
24	堀壽成	小児科	ALLの微小残存病変の評価と活用法	血液内科68巻2号 210-219 2014
25	黒川剛	消化器外科	【最新 肝胆膵脾手術アトラス】 肝臓 肝後区域切除	手術
26	有川卓	消化器外科	難治性食道胃静脈瘤に対する腹腔鏡下Hassab手術	日本門脈圧亢進症学会雑誌
27	大橋 紀文	消化器外科	【胃癌腹膜転移治療の最前線】 胃癌腹膜転移に対する腹腔内化学療法の臨床試験	臨床外科
28	大橋 紀文	消化器外科	【胃癌腹膜転移治療の最前線】 胃癌腹膜転移に対する腹腔内化学療法の臨床試験	臨床外科
29	安田顕	消化器外科	主膵管狭窄を伴う膵頭部漿液性嚢胞腺腫の1例および膵漿液性嚢胞腺腫による主膵管狭窄本邦報告例の検討	膵臓

30	三嶋 秀行	臨床腫瘍センター	待機的消化器外科手術におけるHIV感染の影響	日本外科感染症学会雑誌
31	三嶋 秀行	臨床腫瘍センター	【漢方を上手に使う-エビデンスに基づいた外科診療】 癌化学療法の副作用と漢方 口内炎 半夏瀉心湯	臨床外科
32	石橋宏之	血管外科	術中血管損傷とその対策	手術, 67, 281-286, 2013
33	石橋宏之	血管外科	外傷性胸部大動脈損傷に対するステントグラフト手術の経験	日本血管内治療学会誌, 14, 45-49, 2013
34	只腰雅夫	血管外科	中枢ネックが高度屈曲した腹部大動脈瘤にEndurant留置後、胸部大動脈解離を生じた1例	第16回大動脈ステントグラフト研究会記録集XVI, 12-13, 2013
35	石橋宏之	血管外科	大動脈治療術後の画像診断：胸部・腹部大動脈瘤（ステントグラフト含む）	Heart View, 17, 30-35, 2013
36	石橋宏之	血管外科	特殊な内臓動脈疾患	標準血管外科学IV, 97-99, 2013
37	杉本郁夫	血管外科	機能的診断からみた治療方針	標準血管外科学IV, 46-47, 2013
38	杉本郁夫	血管外科	重症下肢虚血に対する管理	POアカデミージャーナル, 21, 2-5, 2013
39	中野正吾	乳腺・内分泌外科	乳腺画像診断におけるReal-time Virtual Sonography (RVS)の臨床応用 RVSを用いたMRI-detected lesionの検出	MEDICAL TECHNOLOGY 2013 ; 41 (10) : 1042-3
40	今井常夫	乳腺・内分泌外科	【多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブックを読み解く】多発性内分泌腫瘍症2型 治療、サーベイランス	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 2013 ; 30 : 110-3
41	藤井公人	乳腺・内分泌外科	褥瘡回診における超音波検査の有用性.	MEDICAL TECHNOLOGY 2013 ; 41 (9) : 997-1002
42	高安正和	脳神経外科	腰部脊柱管狭窄症	ブレイン 110: 8-9, 2013
43	高安正和	脳神経外科	頭蓋頸椎移行部に対する手術戦略	脳外誌 22: 427-434, 2013
44	高安正和	脳神経外科	頭蓋頸椎移行部 手術：前方から	脊椎脊髄 26:245-252, 2013

45	大須賀浩二	脳神経外科	慢性硬膜下血腫におけるeotaxin-3の発現ならびに作用機序について	神経外傷 36:218-219, 2013
46	安田宗義	脳神経外科	腰椎の疾患と治療	Brain Nursing 29(3) p284-289, 2013
47	安田宗義	脳神経外科	脊髄外科誌上フォーラム：前方手術が躊躇される不安定性のある頸椎症	脊髄外科 27(2) p130-138, 2013
48	安田宗義	脳神経外科	脊髄腫瘍	日本医師会雑誌 142(2) p183-184, 2013
49	竹内幹伸	脳神経外科	頸椎症の手術適応	Brain Medical 2013. 25, 2013-7
50	秋田 洋一	皮膚科	【皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向-】 有棘細胞癌(日光角化症・Bowen病) 先行病変 日光角化症 治療 非手術的治療(外用療法、PDTなど)	日本臨床.2013: 71(4) ; 539-542.
51	秋田 洋一	皮膚科	【美容皮膚診療の工夫-わたしはこうしている-】 レーザー・光治療のコツ 日光角化症に対するPDT.	Derma. 2013 : 209 ; 128-132.
52	伊東 慶子	皮膚科	【生物学的製剤による乾癬治療の工夫と注意点】 (Part1)生物学的製剤による乾癬治療の工夫(case11)透析中の尋常性乾癬患者に対するアダリムマブの使用経験	Visual Dermatology. 2013: 13(3) ;268-269.
53	田中 るい	皮膚科	【サルコイドーシス-2013】 <臨床例>リポイド類壊死症様皮疹を呈したサルコイドーシス.	皮膚病診療 : 35(1) ; 55-58.
54	小原 勇氣	皮膚科	アトピー性皮膚炎患者におけるシクロスポリン100mg1日1回内服療法の有効性の検討	日本皮膚科学会雑誌 : 23(9) : 1799-1806.
55	伊東 慶子	皮膚科	【皮膚科日常診療レベルアップエッセンス】 (II章) 治療 疾患 多汗症.	皮膚科の臨床 : 55(12) ; 1731-1736.
56	大嶋 雄一郎	皮膚科	【美容皮膚診療の工夫-わたしはこうしている-】 手技・知識を深める 多汗症に対するボトックス療法	Derma : 209 ; 153-159.
57	大嶋 雄一郎	皮膚科	原発性腋窩多汗症患者に対するA型ボツリヌス毒素製剤の治療評価	西日本皮膚科 : 75(4) ; 357-364.
58	大嶋 雄一郎	皮膚科	【美容皮膚診療の工夫-わたしはこうしている-】 手技・知識を深める 多汗症に対するボトックス療法	Derma : 209 ; 153-159
59	大山由里子	産科・婦人科	外陰部に発生したAggressive angiomyomaの1例	東海産科婦人科学会雑誌 50:155-160, 2014

60	上野大樹	産科・婦人科	異所性妊娠との鑑別に苦慮した絨毛癌の1例	東海産科婦人科学 会雑誌 50:155-160, 2014
61	土屋吉正	耳鼻咽喉科	機能性p16ペプチドを用いた頭頸部扁平上皮がんに対する細胞内分子標的治療法の検討.	愛知医科大学医学 会雑誌 41:43-51 2013
62	小川徹也	耳鼻咽喉科	特集 頭頸部癌に対する最新治療 セツキシマブ療法における皮膚症状管理 ー愛知医科大学病院での取り組みー	頭頸部癌 2:1:55-7 2014
63	植田広海	耳鼻咽喉科	急患・急変対応マニュアル そのとき必要な処置と処方。IV 術中・術後の急変への対応法、術中編、アプミ骨手術時のgusher。	耳喉頭頸 85 (5):286-288, 2013
64	植田広海	耳鼻咽喉科	自然消退しつつある先天性真珠腫。	耳鼻臨床 106(7):582-583, 2013
65	西村邦宏	耳鼻咽喉科	頭頸部扁平上皮がん細胞株を用いたCDDP耐性因子に関わるタンパクの解析	愛知医科大学医学 会雑誌 第40巻 第1/2/3/4号
66	畠山登	麻酔科	急性循環不全におけるダイナミックモニタリングの動向	救急医学
67	藤原祥裕	麻酔科	超音波ガイド手技の教育とインストラクター(神経ブロック)制度 ②末梢神経ブロックの教育とインストラクター制度	日本臨床麻酔学会 誌
68	藤原祥裕	麻酔科	IV. 各種超音波ガイド下神経ブロック C. 胸部・腰部 3. 仙骨硬膜外ブロック	ペインクリニック
69	藤原祥裕	麻酔科	データから読み解く医療サービス - 急性期医療を中心に -	オペレーションズ・リサーチ
70	藤原祥裕	麻酔科	膝関節手術後鎮痛 - 麻酔科からの視点 -	整形・災害外科
71	木下浩之	麻酔科	血管の病態生理におけるフォスファチジルイノシトール3-キナーゼ-Akt経路の役割と麻酔薬	臨床麻酔
72	藤原祥裕	麻酔科	術後鎮痛のこれから 末梢神経ブロックを最大活用した周術期管理の試み	日本臨床麻酔学会 誌
73	横尾和久	形成外科	顔面腫瘍(瘤)の診断と治療 高齢者に見られる腫瘍	形成外科 56(4):393- 401, 2013
74	横尾和久	形成外科	腱膜性眼瞼下垂手術における私の術中調整	形成外科 56(7):713- 719, 2013

75	梅本泰孝	形成外科	乳房再建時のMDCTとOsiriXを用いた術前評価	形成外科 56(12):1249- 1260, 2013
76	有沢早葵子	中央臨床検査部	高感度血清トロポニンI測定試薬(ケミルミCentaur-トロポニンIウルトラ)の基礎的検討と診断基準値設定の試み	日本臨床検査自動化学会誌、第38 巻第3号、359- 364、2013
77	藤巻恵理子	中央臨床検査部	全自動免疫測定装置「HISCL-5000」の基礎的性能評価	医学と薬学、69巻1 号、179-187、2013
78	森谷 裕司	中央臨床検査部	特集 日当直時の血液検査 -これだけは知っておきたい基礎知識とデータの見方-	月刊MEDICAL TECHNOLOGY 4. 41. 東京 : 医歯 薬出版, 2013 : 373-380.
79	河尻博幸	リハビリテーション部	地域在住高齢者における運動の恩恵と負担を評価する 質問紙開発	心臓リハビリテーション
80	加藤栄史、他	輸血部	我が国におけるヘモビジランスの現状と輸血医療にお ける有用性	日本輸血・細胞治 療学会誌・59・ 443-449, 2013
81	加藤栄史	輸血部	わが国の輸血副作用の現状	Medical Technology、41・ 1099-1108, 2013
82	山田恭聖	周産期母子医療センター	新生児医療フォーラムより～どのルートから脂肪乳剤 を投与するか?～	ネオネイタルケア 2014.10.27(1) p 76-79
83	竹下覚	周産期母子医療センター	TORCH感染症	周産期医学201 3; 43増刊 p 539-41

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 手続方法に関すること (医学研究の新規申請, 変更・継続手続, 有害事象発生時の報告, 研究の中断・中止・終了) 委員会に関すること (委員構成, 審査方針, 委員会の運営, 審査方法)	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(注) 2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反ポリシー、利益相反委員会規程、利益相反規程、利益相反規程細則、利益相反自己申告書の審査方法	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回 持ち回り委員会年7回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 研究者の行動規範研修について 倫理指針改正に関する解説（申請書類書式改定の説明を含む。） 研究倫理のあり方 本学での倫理審査申請手続き及び補償制度の運用 その他医学研究に関するトピックス	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

消化器内科内科学専門医養成コース, 循環器専門医養成コース, 呼吸器病学・アレルギー学及び臨床腫瘍学専門医養成コース, 内分泌・代謝・糖尿病専門医養成コース, 神経内科専門医養成コース, 腎臓・膠原病内科関連専門医・学位取得コース, 血液学専門医養成コース, 総合診療科全人的診療医養成コース, リウマチ学・アレルギー学専門医養成コース, 睡眠医療認定医取得コース, 集中的脳卒中診療研修コース, 臨床検査医養成コース, 輸血・細胞治療学認定医養成コース, 病理・細胞診専門医コース, 感染症専門医/インフルエンザコントロール・ドクター養成コース, 精神科学専門医養成コース, 小児科学専門医養成コース, 皮膚科学専門医取得コース, 放射線科専門医取得コース, 放射線科治療専門医取得コース, 日本外科学会専門医取得コース, 消化器外科学専門医養成コース, 心臓外科学専門医養成コース, 血管外科専門医養成コース, 呼吸器外科学専門医養成コース, 乳腺専門医養成コース, 脳神経外科専門医養成コース, 整形外科専門医養成コース, 泌尿器科専門医養成コース, 産婦人科卒後6年間コース, 形成外科学専門医養成コース, 眼科専門医取得コース, 耳鼻咽喉科専門医養成コース, リハビリテーション専門医取得コース, 救命救急科専門医コース, 麻酔専門医養成コース, 日本ペインクリニック専門医取得コース, 口腔外科専修医習得コース

2 研修の実績

研修医の人数	171人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
春日井邦夫	内科	教授	29年	消化器内科
米田政志	内科	教授	31年	消化器内科
天野哲也	内科	教授	25年	循環器内科
山口悦郎	内科	教授	35年	呼吸器・アレルギー内科
大竹千生	内科	教授	35年	内分泌・代謝内科
道勇学	内科	教授	29年	神経内科, 脳卒中センター
今井裕一	内科	教授	37年	腎臓・リウマチ膠原病内科
高見昭良	内科	教授	23年	血液内科
中村二郎	内科	教授	33年	糖尿病内科, 糖尿病センター
兼本浩祐	精神科, 神経科	教授	31年	精神神経科, こころのケアセンター
奥村彰久	小児科	教授	25年	小児科
佐野力	外科	教授	28年	消化器外科
野浪敏明	外科	教授	39年	消化器外科
磯部文隆	心臓血管外科	教授	39年	心臓外科
石橋宏之	心臓血管外科	教授	32年	血管外科
羽生田正行	呼吸器外科	教授	33年	呼吸科外科
福富隆志	外科	教授	34年	乳腺・内分泌外科
高安正和	脳神経外科	教授	36年	脳神経外科, 脊椎脊髄センター
佐藤啓二	整形外科	教授	38年	整形外科
渡邊大輔	皮膚科	教授	21年	皮膚科
住友誠	泌尿器科	教授	23年	泌尿器科
若槻明彦	産婦人科	教授	30年	産科・婦人科, 生殖・周産期母子医療センター
岩城正佳	眼科	教授	40年	眼科
植田広海	耳鼻咽喉科	教授	35年	耳鼻咽喉科
石口恒男	放射線科	教授	37年	放射線科
藤原祥裕	麻酔科	教授	27年	麻酔科
前川正人	内科	教授	29年	総合診療科, プライマリケアセンター
横尾和久	形成外科	教授	36年	形成外科
中川隆	救急科	教授	36年	救命救急科, 救命救急センター
木村伸也	リハビリテーション科	教授	32年	リハビリテーション科, リハビリテーション部
塩見利明	内科	教授	36年	睡眠科
三嶋廣繁	内科	教授	25年	感染症科, 感染制御部
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	30年	歯科口腔外科
後藤峰弘	内科	教授	36年	臨床検査部

横井豊治	病理診断科	教授	32	年	病院病理部
鈴木和義	外科	教授	34	年	中央手術部
加藤栄史	内科	教授	30	年	輸血部, 細胞治療センター
牛田享宏	麻酔科	教授	23	年	痛みセンター
山田恭聖	小児科	教授	20	年	生殖・周産期母子医療センター
三嶋秀行	外科	教授	30	年	臨床腫瘍センター, 治験管理センター
久保昭仁	内科	教授	27	年	臨床腫瘍センター
三原英嗣	内科	教授	29	年	臨床腫瘍センター
畠山登	麻酔科	教授	25	年	周術期集中治療部
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

①NST勉強会 ②ICT・NST合同勉強会

・研修の期間・実施回数

①9回 ②2回

・研修の参加人数

①360名 ②160名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

重症度，医療・看護必要度研修

・研修の期間・実施回数

1回/年

・研修の参加人数

287名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

①がん懇話会（がん治療に関する発表会・討論会）②新痛みの研究会（外部講師による講演会）③睡眠医学セミナー（学外講師による講演会）④愛知県実践感染カンファランス（院内講師・学外講師による講演会・アンサーパット）⑤細胞治療研究会（学外講師による講演会，研究発表会）⑥愛知子宮筋腫塞栓療法検討会（学外講師による講演会）⑦心身医学研究会（学外講師による講演会）

・研修の期間・実施回数

①1回/年 ②2回/年 ③3回/年 ④6回/年 ⑤2回/年 ⑥1回/年 ⑦2回/年

・研修の参加人数

①100名 ②140名 ③400名 ④400名 ⑤100名 ⑥50名 ⑦130名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
管理責任者氏名	病院長 野浪敏明		
管理担当者氏名	医事課 中條孝弘、病院管理課 畑田真宏、地域医療連携課 竹崎武、医療情報管理課 加藤好幸、薬剤部 松浦克彦、医療安全管理室 高安正和、感染制御部 三嶋廣繁、臨床工学部 今井裕一		
		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院事務部 各科外来 薬剤部 中央カルテ室	病歴資料については、一患者一番号でカルテと一体になっている。外来分は各科外来、入院分は中央カルテ室で保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度医療の研修の実績	病院管理課	
	閲覧実績	医療情報管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規 一則 号第 一 掲 条 の 十 一 体 制 第 一 項 確 保 各 の 号 状 及 び 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 医療安全課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項各号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	及び第九条	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二十三号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	体制の	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
	確保の状況	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 生田芳文、 医事管理部長 秋田高典
閲覧担当者氏名	医事課長 中條孝弘、病院管理課長 畑田真宏、医事管理課長 加藤好幸
閲覧の求めに応じる場所	会議室又は医療情報管理課中央カルテ閲覧室
閲覧の手続の概要	
申出があり次第、上長の承認を得てから閲覧する。	

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無										
<p>・指針の主な内容：</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 安全管理のための基本的な考え方</td> <td>6. 患者相談窓口の設置</td> </tr> <tr> <td>2. 安全管理の体制確保のための委員会</td> <td>7. 医薬品安全管理責任者の設置</td> </tr> <tr> <td>3. 医療安全管理室の設置</td> <td>8. 医療機器安全管理責任者の設置</td> </tr> <tr> <td>4. 医療安全管理者の設置</td> <td>9. 医療事故発生時の対応方法等</td> </tr> <tr> <td>5. セーフティマネージャーの設置</td> <td>10. 安全管理のための職員研修</td> </tr> </table>		1. 安全管理のための基本的な考え方	6. 患者相談窓口の設置	2. 安全管理の体制確保のための委員会	7. 医薬品安全管理責任者の設置	3. 医療安全管理室の設置	8. 医療機器安全管理責任者の設置	4. 医療安全管理者の設置	9. 医療事故発生時の対応方法等	5. セーフティマネージャーの設置	10. 安全管理のための職員研修
1. 安全管理のための基本的な考え方	6. 患者相談窓口の設置										
2. 安全管理の体制確保のための委員会	7. 医薬品安全管理責任者の設置										
3. 医療安全管理室の設置	8. 医療機器安全管理責任者の設置										
4. 医療安全管理者の設置	9. 医療事故発生時の対応方法等										
5. セーフティマネージャーの設置	10. 安全管理のための職員研修										
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回										
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。 2. 医療の安全管理の情報交換に関すること。 3. 医療の安全管理のための教育・研修に関すること。 4. その他医療安全管理に関すること。 											
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 19 回										
<p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全講演会（2回） 2. AEDを使用した心肺蘇生法（7回） 3. エコーを使用したCVカテーテル挿入法（2回） 4. 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」（1回） 5. 新医療安全報告システム運用に伴う説明会（7回） 											
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況											
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全報告システム（富士通／HOPE）の導入（愛知医大仕様への改良） 2. 電子カルテ外来運用開始に伴うマニュアルへの変更・改訂 3. 手術・検査等中止薬確認書自動出力のための紐づけ作業 4. アレルギー情報有効活用に係る検討 											
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (6 名) ・										
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (16 名) ・										
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無										
<p>・所属職員： 専任（ 6 ）名 兼任（ 7 ）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全を確保するための改善方策に関すること。 2. 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。 3. 医療事故発生時の対応に関すること。 4. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。 5. 医療安全管理に関する院内の連絡調整 6. その他医療安全管理に関する業務 											
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無										

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染対策に関する基本的な考え方・ 院内感染のための委員会。その他の当該病院などの組織に関する基本方針・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ・ 感染の発生状況の報告に関する基本方針・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ その他の当該病院等における院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 感染予防対策の確立に関すること。・ 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。・ 感染予防の教育に関すること。・ 感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること。・ その他感染予防に関すること。 <p>以上に掲げる事項の審議</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 26 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 感染防止技術の基礎講座 (7回) ・ ICT勉強会 (1回)・ 院外講師による感染予防に関する講演会 (3回) ・ 新規採用者研修 (7回)・ 感染症例検討会 (6回) ・ ICT・NST合同勉強会 (2回)	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)</p> <div data-bbox="280 1391 1286 1939"><p>院内感染症発生時の報告経路 2014.8</p><p>→ 報告 → 介入</p><pre>graph TD; subgraph Reporting; direction TB; A[感染発生部署] -- 報告 --> B[診療科部長]; A -- 報告 --> C[看護部]; A -- 報告 --> D[感染管理室]; A -- 報告 --> E[微生物検査室]; end; subgraph Intervention; direction TB; D -- 介入 --> F[感染予防対策委員会]; D -- 介入 --> G[ICT]; end; H[感染管理室] -- 報告 --> I[病院長]; J[感染予防対策委員会] -.-> K[感染予防対策委員会 (有事の場合開催)];</pre></div> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>SSIサーベイランスの実施, ICU全サーベイランスの実施, BSIサーベイランスの実施, 全病院サーベイランスの実施, ICTラウンドの実施, リンクナース活動などのサーベイランスの実施とフィードバック</p>	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>①新入職員オリエンテーション ②研修医研修 麻薬・向精神薬および毒薬の適切な保管管理ならびに当院における運用</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (有・無)</p> <p>・業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の改定・医薬品安全使用のための研修・医薬品安全の業務手順書に基づく業務の実施確認・医薬品の安全使用のために必要な情報の収集・医薬品の安全確保に向けた業務改善	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・筋弛緩剤の管理方法の見直し・薬剤部主導による電子カルテシステム導入に向けた安全な部門システム連携の構築・ITを活用した医薬品適正使用のための薬剤部門システム構築（処方鑑査支援、無菌調製支援、製剤管理、TDM解析支援、薬品管理、レジメン鑑査、薬剤管理指導業務支援等）	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 73 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器・輸液ポンプ・体外循環装置・電気メス・麻酔器・患者監視装置などの取扱説明や原理などの基礎知識・点検方法などの講習を行う。病院全体で行わず、各部署で開催し確実に知識を習得してもらえようとしている。より専門の講習は、メーカー主催や学会主催の院外セミナーに参加している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の作成 ○有・無)</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>人工呼吸器・麻酔器・人工心肺装置・PCPS・IABP・除細動器などの定期点検、使用后点検、マンスリー点検を行っている。人工呼吸器は、使用中点検も行っている。放射線装置・放射線治療装置は、中央放射線部が行って報告を受けている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 ○有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品医療機器総合機構からのメール配信サービスや医療機器センターのホームページや関係学会からのメールなどで情報を収集し、関係部署や責任者に院内メールにて配信している。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期	
機関名：公益財団法人日本医療機能評価機構 時期：2005. 10. 17認定, 2010. 12. 3認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	
方法：リーフレットの配布・掲示，ホームページ，病院広報誌など 内容：当院の医療連携上の役割，前方・後方連携への協力要請など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
・ 外来において、循環器内科と血管外科，消化器内科と消化器外科などを同じブロック内に配置し，共同診療に配慮している。 ・ 診療科間で依頼箋により情報交換し，専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては，共同カンファレンスを行って診療を行っている。 ・ 歯科口腔外科と形成外科，消化器外科と心臓外科など疾患の必要に応じて複数の診療科による共同の手術を行っている。 ・ 脊椎脊髄センターを設置し，整形外科と脳神経外科などによる共同診療を行っている。 ・ 救命救急センターにおいては，救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い連携して診療に当たっている。	